

THE SHINGASHI BASIN NEWS

平成10年3月発行/新河岸川フォーラム'97 事務局/横浜市鶴ヶ丘3-4-2 201 TEL/FAX048-474-3504

- 川越五河岸の繁栄 齊藤貞夫
- 流域人インタビュー 落合幸夫
- 流域の街道を行く 広野淳
- 流域の生き物/埼玉県生態系保護協会
- 川づくり/建設省荒川下流工事事務所
- 流域情報



切り絵イラスト/毛利将範

川越五河岸の繁栄 扇河岸 齊藤貞夫

ここは旧の川越市街地の中心部より南東に約3.5 km、東武東上線新河岸駅より東北に徒歩約20分ほどのところに「扇河岸」がある。ここは川越五河岸の一つで、明治12.3年頃仙波河岸が出来るまで、川越に最も近距離の河岸場として栄えたところである。

この周辺は、川越市大字砂地区に囲まれ、次々と都市化の波が押し寄せ、往時を知る人が少なくなっている。この「扇河岸」という地名からして船着き場であり、江戸時代から明治・大正期まで川越と江戸を結んで物資、旅客の輸送をした新河岸川舟運があった河岸場であった。「扇河岸」の開設から述べてみよう。

「扇河岸」の南、「新河岸」は、城下町川越の外港として正保元年(1644)川越城主松平伊豆守信綱によって開設されたといい、この「扇河岸」は天和3年(1683)

3)孫の松平伊豆守信綱により取り立てられたという。

そこで開設当初の顛末を記した川越藩士・津田高知の「扇河岸記」を見よう。

これによれば、天和2年(1683)12月23日、世に言う“八百屋お七”の江戸大火で江戸呉服橋御門内にあった信輝の邸宅が焼失した為、その再建資材の西川材(飯能・越生・毛呂山・日高・名栗方面の木材)を人間川の筏を使って川を下った。その時、川越で木材を崩し舟に積み替えて江戸に運搬することにした。その際上新河岸の上流でしかも台地端で湧水を集めた丸池を巡って屋敷割がなされた。工事は天和3年(1683)正月より8月まで要した。そしてその形が扇の形に似ている事から「扇河岸」と命名したという。注目されるのは、その工事に関係した人物である。川越藩士・松田金左衛



明治10年代の扇河岸復元図

門を奉行として、川越町の10ヶ町町年寄、は流路も変わり、船問屋であった建物も町名主級の有力商人が名を連ねている。住んでいる人も移り、往時を偲ぶものは無くなってしまった。ただ「中安」の女主人・内川政能さん（明治42年生）のみとなってしまった。

流域人インタビュー

新しい太鼓だといわれます。

97年の新河岸川フォーラムで楽しい太鼓の音を聞かせてくれた楽鼓の会の子供たちと、指導していらっしゃる落合さんに、お話をうかがいました。

○初雁流という名前の由来ですが、川越には初雁城があって、初雁という名がつくものが多いんです。それと太鼓を寄贈してくれた建設業協会の会長が初雁工務店の社長だったので、初雁流と名付けました。



○初めは、盆踊りの時だけやっていたんです。でも、どうせやるなら続けて練習して上手に演奏したいということになったんです。それで、次の年の盆踊りのために練習しました。そのうち、1年に1回ではもったいないので、あちこちで演奏するようになったんです。

○町内会の自治会の太鼓を使っていたのですが、それでは他の地区の子供たちができないので、川越音頭の作詞をした柿沼先生に相談して、市長から建設業協会に話をしてもらいました。

○今あるのは大太鼓3、小太鼓2、他に2つです。そのうちの1つは、自分達のギャラで初めて買いました。

○オリジナルで、子供たちの好きな曲を練習しています。練習は月4回ですが、その他に年20回位各地で演奏をしています。他にポピュラーなものをやっているところがないので、新しい太鼓だといわれます。

楽鼓の会
落合幸夫

学校の体育館での練習風景

楽鼓の会のみなさん



ボランティアで指導をしている落合さんの奥さんは、いろんな曲をやって、自分達の曲にしたいと抱負を語ってくれた。親たちもボランティアで参加しているそうで、この日も数人のお母さんが楽しそうに聞いていた。

メンバーは小学生から高校生まで10人。現在、20代までの会員を募集中。会費は月1000円。太鼓の張り替え代がほとんどだが、買い替えのための貯金もしているという。問い合わせは落合さんへ。☎0492-42-6575。

流域の街道を行く
新河岸川の歴史と文化
あらまし(その2)

廣野 淳

地球上のあらゆる生物にとってその生命の源は水であることは言うまでもないが、言いかえるとあらゆる生物は水から誕生したということである。

そして何億万年という気が遠くなるような年月を経てそれぞれの生物が進化してきたのである。それは海中生物、湖川沼などの淡水生物、陸中・陸上生物、大気中の微生物などに分化した。また地球上に人類が誕生したのは今から約300万年前といわれ、他の地球上の生物と同様に空気を吸って水を補給するという点で誕生以来、何ら進化することもなく今日に及んでいる。

つまり、人間は水辺の動物として原始時代清流の水利に恵まれた場所に限り、人々の生活が営まれてきたのである。その意味において新河岸川も同様に原始の頃から人里が営まれ、上流下流を問わず、流域一帯には約3万年前の人跡が、各地の発掘調査の結果から明らかになっている。

殊に、流域の台地縁辺部には旧石器時代（先土器文化）あるいは縄文時代が埋蔵していることが多く、また低地部は縄文時代の後晩期から弥生時代にかけての遺跡が埋蔵している例がある。



さらに次の時代である古墳時代の後期になると、朝鮮半島から学者や技術者、僧侶などの渡来人がやってきて、わが国の歴史上で画期的に急進的な文化をもたらすことになる。これが顕著になるのは、奈良時代であり、仏教具、金銀装飾具、鉄製農耕具、武具、築城法、焼畑農法、牧馬法などの新しい生活技術を開花させた時代でもある。

このような大陸文化は各地の寺院等に現存するほか、古墳や住居跡の発掘調査からも検出されている。この新河岸川流域に点在する古墳および住居跡の発掘調査結果でも朝鮮半島の影響が色濃くしている。

【タヌキ】

日増しに暖かくなる春、寒く厳しい冬を生き抜いたタヌキたちは、発情期を迎えます。

タヌキは主に山地に棲みますが、新河岸川流域でも、水辺林の林縁などに巣を構え、ノネズミやミミズ、昆虫、果実、時には残飯なども食べながら生きています。



じゃれる子タヌキ

子どもの成長は早く約半年で、親と同じ大きさになる

さて、普段はなかなか目にするのではないタヌキですが、子タヌキたちが独り立ちを始める秋頃には、川沿いで姿を目にすることがあります。親離れをした子タヌキたちは、緑が細長くつながった川沿いを移動して新しいすみかを探しているようなのです。

タヌキ 食肉目 イヌ科

体長 50-60cm 尾長 約20cm



黒い部分が横に長い

足が短い

タヌキの足跡



約4cm 前足 後ろ足



ためふん場

タヌキは木のうろや岩の割れ目などを利用して巣を作る。清潔好きで、糞にふんをすることはなく、必ず一定のトイレをする

新河岸川流域における総合治水対策とは

新河岸川流域は、近年首都圏のスプロール化の影響を受け、西武池袋線と新宿線に沿った武蔵野台地の中央部と東武東上線に沿った台地の東部前縁部を中心に著しく開発が進んでいます。新河岸川のように流域の都市化が著しい河川では、従来流域が有していた保水・遊水機能が低下するとともに、人口・資産等の集中により常に水害の危険に脅かされています。

そのような状況の中で早急に治水安全度（新河岸川では概ね10年に一度の洪水に耐えられるように計画）を高めるために、築堤や遊水池の建設など河川改修を強力に進めるのはもちろんのこと、流域の保水・遊水機能を確保するための施設整備、水害に安全な土地利用や建築方式の誘導、洪水時の警戒避難体制の整備などとあわせて総合的に対策を行うものです。

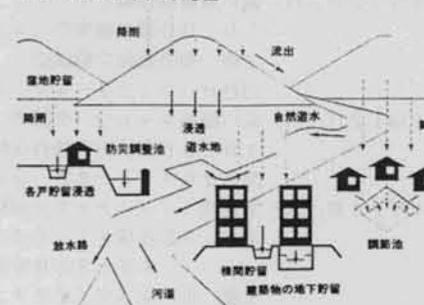
建設省関東地方建設局
荒川下流工事事務所調査課



●総合的な治水対策の体系



●総合的な治水対策の概念図



出典 都市河川事業の概要 (社)日本河川協会

新 河 岸 川 流 域 情 報

「川の道調査」を始めます

昨年は嬉しいことに、新しい活動がいくつか生まれるなど、川に関する地域活動が、当会の流域で活性化してきました。そこで当会としては、今年から流域全体のデータベースづくりに取り組むことにしました。次のような方法で、会員手作りの調査を始めます。

- 流域を1km×1kmのメッシュに分ける。
- 川の道情報など、8つのテーマを設定。
- 会員が好きなテーマを選び、好きなときにやる自由参加方式。

この調査は、とても1年でやれるとは思えません。数年かけて、だんだんレベルを上げていくつもりです。

(柳瀬川流域川づくり市民懇談会 鈴木昭三)

「大森調節池に森をつくろう」

不老川の上流、人間市宮寺に大森調節池があります。6haの敷地の中、暫定計画の4haほどが素晴らしい池となっています。冬の時期を除き、池の中は地下水が溜まっているためヒメガマ、フトイ、クサヨシ、ヤナギタデなどが繁っています。3年前に拡張工事がありましたが、すでにパンやカツツブリなどが繁殖し、カヤネズミも巣を掛け、貴重なタコノアシやミズニラさえ見られ、自然の回復力の速さには驚かされます。生き物たちにとっては貴重な水辺なのです。

いま私たちはここに森を創ろうとしています。池の周囲に繁茂する短刈植物を引き抜き、地元の林床に芽吹いた苗木やドングリを植えていくのです。完成するのは30年先か、50年先か…。でもここが森で覆われたら棲める生き物の種類はもっと多くなり、さらにそれら求めて鳥や動物たちもやって来ることでしょう。治水の機能をもちながらも自然豊かな調節池を未来の子供たちに残すため、自然の復元作業は始まりました。

(不老川流域川づくり市民の会 日比章子)

水源林保全で「基金条例」

97年の新河岸川フォーラム会場となった上福岡市では、水源となる森林づくりを支援しようと「森ダム基金条例」を制定しようとしています。

98年度から基金を積み立てて、水源林がある上流市町村の植林や間伐に役立ててもらおう考えです。埼玉県水政課では「受益者が水源林保全に取り組む条例は、全国でも珍しい」といっています。

98年度は500万円を積み立てて、毎年、市の一般会計から基金に入れるとともに、企業や市民にも寄付を呼びかけます。市の人口は約5万5000人。市民1人1円の負担で5000万円を目標としています。

武蔵博市長は「水源の秩父郡大池村などから、林業が低迷し、雨水を蓄える森林が荒れていることを聞き、流域が一体となって取り組む必要があると考えた」といっています。

新河岸川流域イベントスケジュール

- 4月11日(土) 清流園付近の花と水鳥観察会
14:00 太陽園集合
主催 柳瀬川流域川づくり市民懇談会
問合せ 0429-44-0919 鈴木
- 4月12日(日) 淵の森植樹作業とイチリンソウ観察会
10:00 淵の森集合(JR新秋津駅3分)
主催 淵の森保全協議会
問合せ 0429-44-2533 安田
- 4月12日(日) 荒川流域ネットワーク総会
10:00 東松山市総合会館
問合せ 0493-22-9083 山本
- 4月14日(火) 学習会「プラスチック分別処理のその後」
18:30 池袋メトロポリタンプラザ10F
エポック10多目的ホール
主催 止めようダイオキシン汚染関東ネット
- 4月16日(木) 学習会「健全な水循環の実現に向けて」
20:00 国分寺共同事務所4F
主催 みずとみどり研究会 講師 金子博
- 4月25日(土) 学習会「精子が減ってきた～どうする次世代への責任」 講師 押尾茂(帝京大)
13:00 エポック10多目的ホール
- 5月24日(日) 北川クリーンアップ
10:00 東村山市北山公園国民家園集合
川そうじの後は豚汁で懇談
主催 北川かっぱの会
問合せ 0423-91-2365 三島

情報をお寄せください!

見て、聞いて、歩いて感じたことや他の人にも伝えたいこと、これからの予定や参加者募集のお知らせ、チラシなどを郵便またはFAXでお送りください。
〒351 朝霞市朝志ヶ丘3-4-2-201
新河岸川フォーラム'97朝霞事務局
TEL/FAX: 048-474-3504